

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1470300375
法人名	株式会社 カスタムメディカル研究所
事業所名	スカイホーム横浜
訪問調査日	平成 20 年 10 月 27 日
評価確定日	平成 20 年 12 月 15 日
評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	1470300375
法人名	株式会社 カスタムメディカル研究所
事業所名	スカイホーム横浜
所在地	神奈川県横浜市西区岡野2-8-3 KMプラザ (電話) 045-412-6769

評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会		
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡4-2		
訪問調査日	平成20年10月27日	評価確定日	平成20年12月15日

## 【情報提供票より】(平成20年8月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17 人
職員数	25 人	常勤 6 人, 非常勤 19 人, 常勤換算	12.8 人

## (2) 建物概要

建物構造	RC 造り		
	4 階建ての	3 階 ~	4 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	37,700 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 300,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

## (4) 利用者の概要(平成20年8月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	6 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 84.7 歳	最低	66 歳	最高	95 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	真和クリニック、湘陽かしわ台病院、日航ビル歯科室
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

◆「その人らしく家庭的な環境のもとで共同生活が送れる」ことを理念に謳い、職員は笑顔をもって利用者とともに楽しむことを心がけて支援している。
◆利用者一人ひとりの生活歴や得意なことを活かして、それぞれ役割を受け持つことで、役立っていることを感じてもらえるようにしている。
◆地域の催事への参加、ボランティアの来訪や中学生の体験学習の受け入れ、年末には餅つきをして隣り近所、交番などに届けて食べてもらうなど、積極的に地域との交流に取り組んでいる。時には、電車に乗っての外食なども企画し、多くの人と接する機会を確保するとともに、心身のリフレッシュもはかっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価実施後、災害発生時の対策強化に向けて、設備点検、避難順路や訓練内容の確認と見直しを行い、避難訓練を予定表に組み入れるなどの改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価及び外部評価を日々の業務やサービスを見直す良い機会と捉え、評価の意義を理解して、全職員で意見を出し合い自己評価に取り組んだ。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、家族、自治会、民生委員の出席のもと、事業所から活動状況の報告をするとともに、意見交換を行っている。地域の方々による災害時の協力要請を依頼しており、地域からの支援をスムーズに行う手立てとして、家族の了解の上で事業所の利用者名簿を民生委員に提出した。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来所時には、利用者の暮らしぶりを報告するとともに、家族の意見や要望等を聞いている。運営規定、利用契約書、重要事項説明に意見、苦情等を表明できることを明記し、入居時に説明している。意見箱を事業所の玄関に設置し、内容について調査、改善の上で利用者、家族へ説明を行うようにしている。「苦情対応マニュアル」「苦情受付書」等を整備している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、地域の夏祭り、運動会、バザーなどの催事に積極的に参加するとともに、年末には恒例の餅つきをして隣り近所、交番などに届けて食べてもらっている。また、職員の通勤時や利用者との外出時には地域の方々に進んで挨拶を交わし、交流を深めるよう努めている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で「その人らしい自然な姿で過ごせる家庭的な環境で共同生活が送れるよう援助する」を事業所独自の理念に掲げ、地域に根ざした事業所のあり方について、職員間で日常的に話し合っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関に掲示するとともに、職員間で日常的に朝礼や申し送り、カンファレンス等で職員の役割、事業所の目指すことを話し合い、利用者一人ひとりが安らぎと自然な姿で暮らせる喜びを実感しながら生活が出来るように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の夏祭り、運動会、バザーなどへ積極的に参加するとともに、年末には恒例の餅つきをして隣近所、交番などに届けて食べてもらっている。また、職員の通勤時や利用者との外出時には地域の方々に進んで挨拶を交わし、交流を深めるよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員ともに自己評価及び外部評価を日々の業務やサービスを見直す良い機会と捉え、評価の意義を理解して、全職員で意見を出し合い自己評価に取り組んだ。自己評価を通じ、災害発生時の対策強化に向けて、設備点検、避難順路や訓練内容の確認と見直しを行い、避難訓練を予定表に組み入れるなどの改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進推進会議は2～3ヶ月ごとに行うことを運営規定で定めている。家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員の出席のもと、事業所からは活動状況の報告を行い、意見交換を行っている。家族の了解の上で、民生委員に利用者名簿を提出するとともに、自治会に災害時の協力要請をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や区の主催する研修やグループホーム連絡会・ブロック会に参加して、情報交換を行ったり、相談にのってもらうなど、市や区とともにサービスの質の向上に取り組んでいる		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時を利用して、利用者の暮らしぶりを報告するとともに、毎月の請求書、金銭出納帳、職員の異動等を報告している。さらに、利用者の様子等を写真付きのホーム便りに記載し、毎月の請求書、金銭出納帳の写しを同封して毎月送付している。緊急時には電話で都度連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来所時には、利用者の暮らしぶりを報告するとともに、家族の意見や要望等を聞いている。運営規定、利用契約書、重要事項説明に意見、苦情等を表明できることを明記し、入居時に説明している。意見箱を事業所の玄関に設置し、内容について調査、改善の上で利用者、家族へ説明を行うようにしている。「苦情対応マニュアル」「苦情受付書」等を整備している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限にとどめ、異動がある場合には引継ぎ時間を長く設け、利用者への影響を最小限にするよう配慮している。新入職員には社内研修で事業所に違和感なく溶け込めるよう教育に努め、管理者は職員の話聞き、楽しく暖かい雰囲気作りを心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修情報を事務室に貼り出し、全ての職員が参加できるように調整している。研修終了後は報告書を作成し、朝礼やカンファレンスで報告し全職員で共有している。また、毎月法人内の事業所管理者連絡会でも研修を実施している。平成20年の研修実績は認知症基礎講座(5講座)3人、スキルアップ研修(7講座)2人が受講している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会・ブロック会に参加して、地域の事業所との交流研修を行うなど、連携をはかっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に事業所に来てもらい、面接をして職員の顔を知ってもらったり、本人・家族と、入居している利用者や職員を交えた食事やゲームに参加してもらい、雰囲気馴染めるように工夫をしている。体験入居の制度も設けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	雑巾縫い・洗濯物たたみ・配膳・下膳など出来る事を手伝ってもらい、利用者を人生の先輩として、職員は尊敬の念を持って感謝の言葉をかけ、本人に“役立っている”ことを感じて過ごしてもらえるよう工夫をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に利用者と家族から思いや意向等を聞きアセスメントシートに記入し、職員間で共有している。入居後は利用者から直接思いを話してもらうこともあるが、日々の会話や見守りの中から体調と共に意向の把握に努め、日々の連絡会議で話し合い全職員で共有しケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に利用者と家族からアセスメントを行い、全職員が参加しカンファレンスで、利用者の状況に応じた目標を立て、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に、個人記録や連絡帳を参考に、全職員参加のカンファレンスで見直しをしている。介護認定見直し時には、家族との相談を含め全職員参加のケアカンファレンスで意見を出し合い、見直しを行っている。状況の変化が見られた場合は、適時ミニケースカンファレンスを開き、家族の意向も取り入れて、見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同建物内にある同一法人の小規模多機能型居宅介護事業所の機械浴槽を必要に応じて利用したり、レクリエーション活動への参加もしている。また、地域の住民からの介護に関する相談にも応じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医を希望する場合には引き続き受診してもらい、通院は家族対応とし、家族から診察結果など情報を聞いている。平成20年9月からは24時間対応の協力医療機関の内科診療、月2回認知症専門医による往診や歯科医も利用して、相談や治療を受けられる体制を整えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化して医療面でのケアが必要となった場合には、かかりつけ医の意見を参考にカンファレンスを繰り返し行い、家族の意向を確認した上で退居に必要な援助をすることを運営規定で定めているが、24時間対応の協力医療機関への診療体制の変更とあいまって、平成20年9月に看取りを体験し、規定の変更とともに今後も看取り介護を行っていく予定である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳やプライバシーを損ねないように、全職員で言葉遣いや対応に日頃から注意している。また、個人情報保護についてミーティングや会議で取り上げ徹底をはかり、個人名を記した書類は事務所の鍵のかかる書類保管棚に納めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝、利用者の健康状態を把握して、希望を聞き、無理強いすることなく自由に趣味に取り組んだり、買い物に出かけたりして、利用者一人ひとりにあわせた生活を送れるよう支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者から希望を聞いてその日の献立を決めることもある。職員とともに食事作り、盛り付けや配膳、下膳や洗物など、出来ることをやってもらっている。食事は利用者と職員が同じテーブルで楽しみながらとっている。利用者の誕生日には松花堂弁当や季節の食材を使った献立を取り入れる工夫もしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回曜日を決めているが、利用者の生活習慣や体調により柔軟に行っている。シャワー浴はいつでも出来るようにしている。入浴を好まない利用者には無理強いせず、声かけを工夫して対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、雑巾縫い、飼っている亀の世話など、利用者の得意なことでそれぞれ役割を受け持つことで、役立っていることを感じてもらうようにしている。また、墨絵やエアロビクスなどの習い事、家族の対応でプール通いなど、楽しみと張りのある生活が送られるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は一人ひとりの体調や気分を考慮しながら、近くの公園への散歩や買い物に出かけている。時には、多くの人と接する機会として電車に乗っての外食なども企画して、心身のリフレッシュをはかっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけず夜間のみ施錠をしている。入口にセンサーを設置し、職員は見守りと声かけで対応している。居室の施錠は利用者の意思に任せているが、万が一を考えて職員はマスターキーを所持している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回防災避難訓練を消防署の協力を得て行っている。非常食、水、防災頭巾等を備え、業者による防災設備機器の点検も実施している。災害時には同一法人の小規模多機能型居宅介護事業所と連携して対応し、また、家族の了解の上で民生委員に利用者名簿を提供するとともに、自治会に協力要請をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事と水分の摂取量を都度記録し、協力医療機関の往診時に見せてアドバイスを受けている。献立は法人の管理栄養士が作成したメニューを参考に、利用者の嗜好と健康状態を踏まえて作り、事後の栄養管理のチェックを年に1回受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや洗面所は広く車椅子対応になっており、共用空間は清潔で不快な音や臭いは感じられない。居間には生け花や観葉植物があり、壁面には利用者の手作りカレンダーやスナップ写真などが貼られている。続きに畳のコーナーもあり、冬にはコタツが設けられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	重要事項説明書に馴染みの物や大切にしている物を持んでもらうよう明記し、入居時に説明している。居屋には整理ダンスや仏壇などが持ち込まれ、写真やぬいぐるみ等も飾られ、それぞれの好みの設えになっている。		



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	スカイホーム横浜
(ユニット名)	赤い靴
所在地 (県・市町村名)	横浜市西区岡野2-8-3 KMプラザ
記入者名 (管理者)	山田 文子
記入日	平成 20年 8 月 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域社会に根ざしたグループホームのあり方について、スタッフ間で日常的に話をしています。理念の意義や役割を理解して行く様努めています。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、スタッフにはホームの目指すところを確認し合っています。又、新人研修やカンファレンスを通して共有しています。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	月1回の「グループホームたより」の発行や運営推進会議を通して日々の活動を理解してもらおう様努めております。	<input type="radio"/> 毎月のホーム便りに最近の様子や写真を貼り日頃の様子をお伝えしています。2ヶ月に一度の運営推進会議を開催し、ホームの様々な事項を開示しています。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩やその他の外出の機会には近所の方々とコミュニケーションを心がけております。	<input type="radio"/> 年末の餅つきの際には ついたお餅を隣近所・交番のおまわりさんに届け食べていただいております。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会し夏祭りなど催し物に参加し交流を計って居ります。職員は通勤時、外出時に地域の方々に積極的に挨拶をかわしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方やご家族に介護サービスや認知症などについてもわかりやすくアドバイスを行っています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日々の業務やサービスを見直す機会としてとらえ、評価の意識についてはスタッフに周知しています。	○	外日評価の結果は玄関にすぐ見られる様ファイルしてあります。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	H19年・8月より開催、自治会・民生委員も出席頂き評価や意見を頂いて居ります。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市・区サービス課・高齢担当者には情報提供をしていただいたり、ホーム内の困難事例についてもアドバイスを頂いて居ります。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に参加し、スタッフが事業や制度の理解に努めて居りご家族への啓蒙を進めています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的に何が虐待にあたるか、何が虐待につながるかを話し合いを行っている。高齢者の虐待防止の定義を廊下に掲示し全職員がこれを遵守する様にしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>ホーム内で出来る事出来ない事を説明し、ご家族や入居者の意向・要望等伺い、十分に納得した上で契約を結んで居ります。</p>	<p>○</p> <p>契約の改定をする場合にはその都度連絡し、印鑑を頂く様にしている。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常生活の中で意見要望を寄せられる様心がけ家族への手紙、電話等で連絡が取れる体制を整えています。</p>	<p>○</p> <p>運営推進会議の中でも忌憚のない意見交換をしている。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月の中頃に請求書と共に金銭出納帳の写しと『ホームたより』に写真を貼りエピソードや職員の移動を記載し郵送しています。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議等で第三者を含めて自由に発言して頂き、意見の交換をし、サービスの改善に努めて居ります。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>常にお互いの意見を交換している。問題や疑問が生じれば日々の業務の合間にも納得できるまで話し合える体制作りをしている。</p>	<p>○</p> <p>朝のミーティング時に意見や提案を聞き、反映させています。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者のレベルダウンに伴い時間帯をずらしたシフトを組んだりと配慮している。又、突然の休みに対して代替りのスタッフが勤務対応出来る様にしております。</p>	<p>○</p> <p>希望の休みはスタッフ同士の話し合いで取れる様配慮している。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の移動は最小限にとどめています。離職者が出た場合は余裕をもって引き継ぎを行って居ります。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修・勉強会等には定期的に参加し、研修内容を伝えている。	○ 学んできた事は研修記録を提出し、共有している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会やブロック会等に参加し、系列の研修会にも出席し、サービスの向上に努めております。	○ ブロック会の会議にも参加しています。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	一人一人の意見を大切にし、食事会等で意見交換の場を設け、必要な際には助言をしています。	○ 定期的な食事会を企画し、ストレスの発散に心がけています。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフ一人一人の得意分野を見つけ、力を発揮してもらい、成功した際の自信や意欲に繋げていく。自分の中で短期目標を定め努力する様に努めて居ります。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時の面接においては現在直面している問題点、不安等について詳細に伺い入居を決める様にしている。	○ 体験入居も取り入れ馴染んだところで入居していただいで居ります。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の希望を充分理解し繰り返し話し合いを行い何が不安なのか傾聴に努めております。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の時点で、今 何が困っているか、何が不安なのか良く話を聞き、具体化必要に応じたサービス利用を考えて居ります。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームでの面接と合わせ、入居されている方々の交流が持てる様に食事を一緒にしていただいたり雰囲気に馴染んでいただいております。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個々の得意な事、興味のあることを生活の中で発揮して頂いております。	○	雑巾縫い・洗濯物たたみ、食器洗い等、出きる事はして頂いて居ります。その時は必ず感謝の言葉を伝える様にしている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会に来ていただいた際、昔の様子を聞き、ケアの参考にしたり、泊まっていたり家族と外出し共に過ごす様支援しています。	○	家族面会時、近況を必ずお話し、不安なこと・変化があった時は随時連絡を入れる様にしています。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	余り面会に見えない場合には手紙や電話等で連絡が取れる様働きかけています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が入居する迄使用していた居宅介護支援のヘルパーさんに来ていただいたりしています。又、甥・孫等時々面会に見られます。	○	本人の希望があれば電話、手紙は自由にかかけたり出されたりしています。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士がくつろいでいる時には その雰囲気が保たれる様にスタッフが見守り言い争い等、トラブルが発生した際にはスタッフが介入し大きなトラブルを未然に防ぐ様努めています。	○	他の入居者との関わりが難しい方には職員が仲介し、その方が主役になれる場の提供をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去の際には その人に合った行き先やサービスの紹介を行って居ります。又、ご家族とも連絡し、その後の経緯も把握する様努めております。	○	退去後もご本人が その人らしく生活出来る様に必要に応じて情報提供を行っている。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を確認し尊重する様努めている。本人の好きな飲み物をチョイス出来る様声かけしております。	○	相手の立場に立った考え方が出来る様心がけ、話し合いを行っています。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活の様子等、本人又はご家族に生活暦を書いて提供していただき、折々に情報を得ています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	食事の時は同じテーブルにつき食事の進み具合等気に止め、好みに合った調理にし声かけをしながら食事をして居ります。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	少しの変化でも見られた時点でミニケース会議を行う様にしている。家族の意見も取り入れケアに生かせる様にしています。	○	一方の視点からではなく、多角的に見て行く様勤めケースカンファレンスをまめに行う。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケース会議は3ヶ月ごとに更新し、状況に合わせ見直しをしている。ケアプランは6ヶ月ごとに見直しを行っている。	○	状況に変化があった時は朝礼時にミニケアカンファレンスを行いその都度修正し、スタッフ間の共有に勤める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録についてはセンター方式D-4を活用し、入居者の言葉を記入し 申し送りノートに記入し必要な情報はスタッフ間で共有しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一階に小規模多機能があり機械浴が完備されているので必要時に使用出来る様になっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	コーラス・墨絵・エアロビ等ボランティアの方々の援助により、ホームでの生活を豊かにすべく努めて居ります。	○	一ヶ月に一度は電車で食事に出かけています。駅員さんの親切に支えながら外出を楽しんで居ります。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者が自宅で利用していたホームヘルパーが来て下さったり、社協の囲碁・将棋のお相手等、利用させていただいて居ります。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に出席していただいて居り、貴重な意見や助言をいただいて居ります		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一回の内科医の訪問、月二回の認知症専門医の訪問診療により、アドバイスや相談を受けています。デンタルクリニックも利用しています。		今後24時間対応のクリニックに変更すべく準備中である。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	水分・排便・バイタルは毎日チェックし、月二回の体重測定を行っております。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	かかりつけ医師と相談の上、受け入れ病院を検討し、事前に相談に出向いています。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人格を尊重し本人を傷つけない様に言葉かけや対応に配慮している。個人情報保護に関する契約を事業所と交わし徹底を図っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	基本的に入居者やご家族と話し合い、本人の希望に沿った趣味・活動や嗜好品等のサービスを提供しております。本人の財産や健康を害する事柄については、入居者ご家族に納得して頂いた上で提供をお断りして居ります。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの生活は常に入居者が主人公であるというのがホームのモットーの一つです。個々のペースやスタイルを尊重し、その人に相応しい生活が送れる様支援して居ります。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者自信の洗濯により日々、身だしなみや整容を決定しています。汚れたりしている時はスタッフが声かけし決める事もあります。2ヶ月に一度訪問理美容を利用し、個人的に馴染みの美容院へ行ける様支援して居ります。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のリクエストに応じてメニューを決める事もあります。スタッフと入居者が同じテーブルについて見守りながら一緒に食事を楽しんで居ります。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご家族の要望を入居者の健康に配慮しながら医師に許された範囲内で嗜好品の提供を行っています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排便チェック表をつけ、個別の排泄パターンを把握し、失敗時 本人が傷つかない様周囲に気付かれぬ様配慮して居ります。時間でトイレ誘導しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人のこれまでの生活習慣や希望に合わせて入浴出来る様支援しています。シャワー浴はいつでも可能である。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	外出・レクリエーション後は個々の疲れ具合に依り休息していただいている。又、原因を探り生活パターンを見直し安眠できる様支援しています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お天気の良い日には近くの公園に散歩に出かけ、亀の世話、洗濯物たたみ、雑巾縫い等、生き生きとした生活が送れる様支援して居ります。	○	最近では良く電車で出かけます。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来なくなるとご家族からの意見が多く、こちらで管理していますが 可能な限りお金の所持や使用を支援して居ります。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の希望に合わせて、買い物や戸外に出掛けられる様支援しています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年一回のバス旅行 12月には中華街にてクリスマス会を企画し、ご家族の参加も得られ、楽しい一日を過ごされる様支援して居ります。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があればいつでも自由に電話をかけて頂いている。手紙は書かれた時点で本人と一緒に投函しています。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の設定はなく、いつでも自由に訪問していただき、居り一緒に食事をされたり、泊まって帰られるご家族もいらっしゃいます。	
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自由にする事への見守りの元で日常生活を送って頂いています。スタッフ全員が朝礼のみならず、あらゆる機会を利用し研修等で共有化を図っております。	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関には鍵はかけず夜間のみ施錠している。本人の意見を尊重し行動を見ながら見守り声かけしています。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフは入居者の足音、行動を常に把握し、連携により見守りをしている。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状況に応じて自由を重んじながら適且安全を確保しております。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告の作成によりカンファレンスを行い再発防止に努めています。足の運びの悪い方にはホーム内でもサークル・シルバーカーを使用いただいております。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急時マニュアルを目のつくところに掲示し、全スタッフが把握して居ります。	○	朝礼時、緊急時の対応の再確認を行う。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練の実施。業者による定期設備点検。防災頭巾は入居者の数だけ用意しております。		火災時には地域の方達にも炊き出し 等も考慮して居ります。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	電話や面会時、状況報告をし、生き活きとした暮らしが営める様 最善策を導き出し実施して居ります。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェック、あらゆる場面で顔色や状態を観察。異変時には受診につなげたりと身体状況を日々把握し早期発見出来る様配慮しています。	○	排便・水分チェック表の確認をし、水分摂取が少ないときはポカリスエット・麦茶等飲んでいただいている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は個人別に一週間のケースに朝・昼・夕と区分され、用法・用量は管理ファイルにて把握出来る様にしている。	○	処方を変更した時は連絡帳に記入し共有している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表を作成し、体操・散歩等を取り入れ 冷たい牛乳・ヨーグルト等、飲食物を工夫し自然排便を促しています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、声かけのみの人、半介助・全介助の方と一人一人に合ったケアをしている。義歯は夕食後 回収し洗浄剤に浸け朝渡す様にしています。	○	専門の指導を受け、全スタッフが口腔ケアの必要性を理解しています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量チェック表を作成し、栄養に偏りが無い様に栄養士が作成したメニューをベースに決めています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防対応を全職員に周知しドアノブ・テーブル・椅子等は次亜塩素酸の希釈液で拭いている。インフルエンザはワクチン接種をしています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・台布巾・包丁は毎日 次亜塩素酸で除菌し、冷蔵庫チェックは毎日とし、調理器具の取り扱い方、取り決めを台所に掲示しております。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周囲には花を植え、玄関は引き戸で植物を置き雰囲気作りを心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の続きには畳の間があり、冬にはコタツにし、ソファを置いてくつろげる様にし、テーブルには花を飾っている。リビングの壁面には入居者の作品や写真を掲示し、入居者、来訪者に楽しんでいただいている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コタツで暖をとり、テレビを見たり、気の合った入居者と自由に過ごし語り合ったりしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、馴染みの物、ダンス・ベット・仏壇等、持ち込まれ自宅であるという気持ちで生活して頂ける様支援して居ります。	○	居室スペースに限りがあるので、本人家族と話し合い 居心地良く安全を考えた居室作りをしている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝、夕、掃除の時こまめに居室の換気を行い、不快な臭いが漂わない様気をつけている。冷暖房・温度調整は常に適温になる様気を配っています。	○	必要に応じ、消臭スプレー等で対応する。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の個人の状態に応じ、シルバーカー・歩行器や使用風呂場入り口には手摺り、玄関の靴脱ぎ場には折りたたみの備え付け椅子を設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者と一緒に居室の清掃や整理を行い、物の遺失や見当識の混乱防止に努めております。又、居室のドアには表札を作り 本人の好きな絵や写真を貼って 他の入居者の居室との区別が出来る様にして居ります。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋上にはプランターにて花や野菜作りをし、収穫を楽しんで居ります。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者が「その人らしく生活出来る様、持てる力を出す事が出来る」その為に職員は何をすべきかを第一に考える様 職員に浸透させています。

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	スカイホーム横浜
(ユニット名)	虹の橋
所在地 (県・市町村名)	横浜市西区岡野2-8-3 KMプラザ
記入者名 (管理者)	山田 文子
記入日	平成 20年 8月 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域社会に根ざしたグループホームのあり方について、スタッフ間で日常的に話をしています。理念の意義や役割を理解して行く様努めています。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、スタッフにはホームの目指すところを確認し合っています。又、新人研修やカンファレンスを通して共有しています。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	月1回の「グループホームたより」の発行や運営推進会議を通して日々の活動を理解してもらおう様努めております。	○	毎月のホーム便りに最近の様子や写真を貼り日頃の様子をお伝えしています。2ヶ月に一度の運営推進会議を開催し、ホームの様々な事項を開示しています。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の公園に散歩に出かけている 町内の中学校の学生との交流		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	お祭り・運動会・バザー等、回覧板等で確認し積極的に参加しております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方や民生委員の方、ご家族にコミュニケーションを取っています。 ボランティア活動等		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日々の業務やサービスを見直す機会としてとらえ、評価の意識についてはスタッフに周知しています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にはご家族の方にも参加して頂き、意見交換をしています。参加出来ないご家族の方へは月に一度送付を行い、お互いの理解を深め更なるサービスの向上に繋げて行く様努力しています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の会議等にも参加し意見交換を行っている。自治会の役員の方々・入居者・スタッフ・会社役員を含め積極的に食事会を設け、お互いの交流を深め、災害時の対応等の課題についても話し合いを行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	公的及び、私的機関が主催する研修に参加し、朝礼等で内容の報告を行いスタッフ一同 事業や制度の理解に努めています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一同 虐待の定義を学び、日頃の入居者に対する対応を振り返り分析し要因を探り、職員間の情報を共有し虐待防止に努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約内容について文章にて明確に説明し、まず本人・家族の意向や要望を時間をかけて伺い十分に納得していただいた上で契約を結んで居ります。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中、あらゆる場面においても入居者自ら意見要望を自由に話せる雰囲気作りに努めご家族への手紙、電話等いつでも連絡が取れる様配慮しております。面会時などに意見交換し、ケアプランに反映させています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の面会時等を活用し、その都度説明し、ホーム便りの中に請求書・金銭出納帳の写し、日頃の入居者の写真・活動状況を記載し月に一度郵送して居ります。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	エレベーターの入り口に意見箱を設置し、自由に意見を表せる機会を設けています。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼・カンファレンスで職員同士の意見交換をし、問題・疑問が生じれば日々お互いが納得出来るまで話せる体制を整えています。	○ 朝のミーティングを利用し、行っています。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	十分な人員確保 突然の休みに対しても対応し、バックアップフォロー出来る様にしています。申し送り・口頭・連絡ノートの活用 入居者のレベルダウンに伴い、状況に合わせて柔軟な対応に努めて居ります。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は必要最小限に留めて居ります。離職者については十分な時間的余裕を持ち、引継ぎを行い新職員については社内研修の充実を計り、違和感なくホームに溶け込める様教育に勤めて居ります。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎日の朝礼・カンファレンス等に研修報告の発表の場を設け、積極的に意見交換を行って居ります。</p>	<p>○</p> <p>研修報告の発表等でスタッフ全員で共有しています。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地区の定例会・連絡会への参加。同系列グループホーム研修の受け入れ、他の人の気づき意見を参考としサービスの向上に努めて居ります。他のグループホームとの交換研修を行いスキルアップに努めております。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>定期的に食事会・意見交換の場を設け一人一人が自由に発言・議論を行い必要な際には助言を行っています。</p>	<p>○</p> <p>定期的に食事会を企画しストレスの発散に心がけています。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>研修に多く参加し、学んだ事に対し取り組みへの実行を日々の介護に役立て各自 質の高い支援の自己啓発に努めて居ります。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居時の面接において時間をかけ現在直面している問題、不安等に対し詳細に伺い解決すべき点に対し納得の行くまで一緒に考え信頼関係を築いて居ります。</p>	<p>○</p> <p>体験入居等取り組んでおります。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面接時・家族会等、話し合いの機会を何度でも持ち悩みや不安を傾聴し、これからの問題解決への方策を提示し依り良い支援が出来る様努力しております。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族が望む時、いつでも対応出来る様に環境作りに努め不安や困っている事が何なのか具体化しニーズを把握して必要に応じて地域のケアマネージャー・サービス利用を考えて居ります。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム内で食事やリクリエーション等を通じ入居されてる方とコミュニケーションが取れる様十分体験等して頂き、無理のないサービス開始に努めております。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の得意とすること 家事等を通じ、時には一緒に失敗や良く出来た事を喜び合い、共に感じ過ごせる様心がけて居ります。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来た時も本人だけでなく他の入居者との おやつ 散歩 行事等に参加して頂きながらケアのヒントにし日々のケアに繋げております。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会を通じて認知症への理解を深めて頂く。面会へなかなか来られない家族の方には近況をFAXにてお知らせさせて頂き、面会に来て頂ける様働きかけて居ります。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状・暑中見舞い等、季節の葉書を活用したり近隣の方も気軽にホームに立ち寄って頂けるよう働きかけて居ります。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	リビングでは自由に話しが出来る様オープンにスタッフが常に見守りしながらスムーズなコミュニケーションを取れる様に努めて居ります。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	事情により止む無く退去にいたる場合でも入居者のニーズにかなった行き先やサービスの提供を行って居ります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自己決定の尊重を最優先に努め困難な場合は一緒に考え支援して居ります。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から馴染みの暮らしの情報を元に居室の環境等 馴染みやすい様工夫しています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	食事はスタッフも共に同じテーブルにつき普段からの食欲の観察・体調管理の把握に努めて居ります。同じテーブルで食事をする事により、なにげない会話の中から支援の方法のヒントを見付け、より良いケアに繋げて居ります。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日の申し送り等、情報を徹底し、事あるごとに細やかなケアカンファレンスを行う。面会や家族会を利用し、ご家族の意見も伺いケアに生かして居ります。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3月ごとに更新。状況に合わせ必要な際、はケアプランの見直しを行っております。本人・ご家族・職員の三者で話し合いが出来る様努力して居ります。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録についてはセンター方式D-4を採用し、入居者のなにげない会話・言葉を良く観察しスタッフ内だ共有しケアプランの作成に活用しています。必要に応じ連絡ノート・気付きノートを使い情報の共有をしています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じ事業所内に小規模多機能があり必要に応じて機会浴を使用しています。レクリエーション等も行っています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	墨絵やエアロビクス等ボランティアグループの協力をお願いします。消防訓練にも参加しています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の希望があれば、ご家族の方と相談しながら地域の体操等に行ったり、社協のボランティアの方にホームへ来て頂いたりして居ります。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に出席して頂いて貴重な意見交換、助言を頂いて居ります。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一回の内科、月二回の認知症専門医の往診により、薬の処方を受け アドバイス・相談をしています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	訪問の看護師による 訪問の指導を受け、常に連絡できる態勢にして居ります。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄記録をつけながら 排泄のパターンを把握し さりげない支援を心がけて居ります。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人のこれまでの生活習慣などを配慮し希望に合わせて入浴出来るように支援して居ります。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の体調や疲れ具合により、休息の声かけなどを行っております。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活観を参考にし入居者に合った役割・仕事を分配して日々過ごして頂いて居ります。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	保持出来る方はさりげない支援の元で個々に保持し、スーパー等、買い物に行った際は見守り・支援をしながら本人の出来る範囲で支払いをして頂いて居ります。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の希望に合わせて買い物・散歩等 戸外に出掛けられる様に支援しております。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年一回の秋のバス旅行、12月にはクリスマス会を行っておりご家族の参加もお願いして居ります。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば いつでも自由に電話をかけて頂ける様に支援しております。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来所された際は個々の居室やリビングで一緒にお茶を飲みながらお話できる様支援しております。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束する行為などをスタッフ間で勉強や情報収集し共有し合っています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はカギをかけず利用者が外出を希望する際は一緒に又は見守りながら支援しております。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員一人一人が利用者の動きを把握し常に所在を把握しております。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物類等、危険と思われる物は本人やご家族の承諾を得た上で事務所に保管しています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者とその日の状態に応じて お粥や刻み食にする等の支援をしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアルをスタッフ全員の目の付く所に掲示しています。救急講習なども受けています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	業者による定期的な避難設備点検。利用者一人一人に防災ずきんの用意をしています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	スタッフが個々の利用者の現状を把握し、面会時等でご家族に説明し話し合いの中から一人一人が生き生き暮らせる様な策を導き出し実施しております。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	食事・バイタル・水分チェック・排便チェック等、ホームの職員が常に気を配り異常のサインを発見した際はすぐに相談出来る様にして居ります。お茶・体操時など あらゆる場面で顔色や状態を観察しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人の薬の処方箋を保管し、スタッフが確認・理解できる様に努めています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々の排便表を作成しており、排便の把握をすると共に排便が見られない場合は牛乳やマッサージ等を行っております。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、スタッフにより菌みがきや口をゆすぎ 声かけをし行ってもらっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量のチェック表、水分摂取表も作成し、個々の状態に応じて過不足のない様に支援しております。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	全職員に予防対応を周知し次亜塩素酸の希釈液でテーブルや椅子・ドアノブを拭いている。利用者・スタッフ共にインフルエンザはワクチン接種をしています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、まな板・台布巾・包丁などの除菌を行っております。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の入り口にお花を置いたり、入居者の作品(塗り絵等)を飾る様にしています。又、ご家族の方がホームの雰囲気がわかる様 写真などを置いています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日のカレンダー一作りの際、その月に応じた絵や作品を作り居間に飾っています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	屋上ではベンチを置き、入居者同士が座って話しが出来る様にしており居間にはソファがある為、一人で新聞を読んだり、テレビを観たり出来る様にして居ります。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、本人が使用していたベット・ダンス等を持ち込まれ今までと変わらず生活ができる様支援しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者、個々の状況やその時の体調に応じて冷暖房の温度調節をしています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者個々の状態に応じて、車イスやシルバーカー・杖などを使用しており 廊下やトイレには手摺りを付け玄関入り口には椅子を設置して居ります。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室の入り口ドアには表札を付け、居室内には利用者が今まで使用していた物、本人や家族の写真などを貼ってあります。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋上にはプランターを置き、花や野菜を作り交代でスタッフと一緒に水やりを行っております。		



V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)